



SALVATIONIST

とぎのこえ

2025年標語「信仰の遺産の上に築く」(テモテへの手紙二 1章14節)

二〇二五年一月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行



新春号

広報版

2025

January-February

No.2882

2025年 救世軍標語

と きの こ え SALVATIONIST

「信仰の遺産の上に築く」

「あなたにゆだねられている良いものを、わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。」

テモテへの手紙二 1章 14節

新春号 広報版

2025 January - February
NO.2882

もくじ

- メッセージ
信仰の遺産の上に築く
司令官 大佐 スティーブン・モーリス ……3
- (連載) 聖潔の流れに立つ 第36回
ジョン・ウェスレーの聖潔
一心うち燃えて—
少佐 丸畑 幸夫 ……4
- 集会報告
召天者合同記念会、救世軍チャリティーコンサート ……5
司令官及び軍国女性部会長による
関東東北連隊キャンペーン(1) ……6
伝道事業部長及び副伝道事業部長による
西日本連隊 中国四国九州地区キャンペーン ……7
人事・教育部長による
東京東海道連隊 東海道地区キャンペーン ……8
- 各地のニュース!!
杉並小隊 ……8
士官志願者部・霊的生活成長部、士官学校、女性部 ……9
- YP(青少年部)・ファミリーニュース
名古屋小隊、佐野小隊、杉並小隊 ……10
- 災害対策室リポート
第4回災害対策室講習会
- 各地のニュース!!
医療従事者交友会、医療部 ……11
熊谷小隊、北海道連隊
- 〈連載・第11回〉各地の小隊から
名古屋小隊 ……12
- 〈連載・第30回〉
神の呼びかけ～神の民となるために～
(12) 戦いへの呼びかけ ……13
- 救世軍見解表明
社会道德に対する救世軍の立場
第14回「障がいのある人々」(3)
第15回「ポルノグラフィ」(1) ……14
- 召天記事、救世軍公報
万国神学シンポジウム ……15
- 各地のニュース!!
清瀬病院、グレイス、月島小隊 ……16

指揮

リンドン・バッキンガム大将 及び
ブロンウィン・バッキンガム中將

全国大会

2025年 11月 19日～25日

テーマ「新しい地平線へ」
(イザヤ書 43章 19節)

この計画に神様の豊かな導きを与えられるよう、
期待し、お祈りください。





@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

- きりとリ -

『と きの こ え』購読を申し込みます。
(1年分 1140円。税込、送料別)

キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真：昨年12月9日、東京アメリカンクラブでのジャパン・スタッフ・バンドの演奏

メッセージ

信仰の遺産の上に築く

司令官 大佐 スティーブ・モーリス



親愛なる救世軍の士官、戦友、軍友の皆様、新年明けましておめでとうございます。二〇二五年の皆様にとって祝福に満ちた年となりますよう願っています。

今年の軍国標語「信仰の遺産の上に築く」は、私たちの先人が築き上げてきた信仰の基盤を大切にしながら、新たな時代に向けて前進していく決意を表しています。

基調聖句である「あなたにゆだねられている良いものを、わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい」(テモテ二・14)はこの決意を支える重要な指針となります。

私たちは、百年以上により各地域の人々に奉仕してきた救世軍の医療事業の将来について、重要な岐路に立たされています。この状況は、変化する時代の中で私たちの使命をどのように

継続していくかを深く考えさせられる機会となりました。

しかし、この困難な状況の中でも、私たちは「魂を救い、聖徒を育て、傷ついた人類に奉仕する」という救世軍の不変の使命を忘れてはいません。この使命こそが、私たちが受け継ぎ、守り、そして次の世代に伝えていくべき最も貴重な信仰の遺産なのです。

新年度から導入される「単独士官職制度」と「特務中尉制度」は、この信仰の遺産を基盤としながら、新しい時代のニーズに 대응しようとする取り組みの一例です。これらの制度は、より多くの人が救世軍の使命に参加する機会を提供し、私たちの働きをさらに強化することでしょう。

「単独士官職制度」は、配偶者の一方だけが士官として献身する道を開くものです。また、「特務中尉制度」は、まだ士官としての召命は感じていないものの、神に対して献身の思いがある方々に新たな奉仕の機会を提供します。これらの制度により、多様な背景をもつ

人々が救世軍の使命に参加できるようになります。

さらに、私たちは全国各地の他のキリスト教団体と共に協力し、個々の団体が単独で達成できる以上に大きな影響をキリストのためにも与えることを目指しています。このような連携を通じて、福音のメッセージがより広く、深く社会に届くよう努力してまいります。

今年の十一月に開催される全国大会のテーマ「新しい地平線へ」(イザヤ43:19)は、まさに私たちが直面している課題と希望を表現しています。私たちは組織の規模を縮小せざるを得ない状況にあります。それでも信仰の遺産は損なわれることなく、むしろ新たな形で輝きを増していくのです。

二〇二五年、私たち一人一人が、聖霊の導きに従いながら、受け継いだ信仰の遺産を大切に守り、その上に新しい働きを築いていきましょう。困難な時代だからこそ、私たちの使命はより重要性を増しています。共に励まし合い、祈り合いながら、新しい地平線に向

かって前進していきましょう。

私たちは、救世軍の創業時代以来の使命と精神を守りつつ、急激に変化している現代社会のニーズに応える新しい形の奉仕を模索し続けます。それは、時に困難な決断を伴うかもしれませんが、私たちの信仰と使命に忠実であり続けることで、必ずや新たな道が開けると信じています。

神様の豊かな祝福が皆様の上にありますように。共に、信仰の遺産の上に新しい未来を築いていきましょう。

コイノニア・リトリート

2月28日(金)

～3月2日(日)

ゲスト 豊田信行師、かな 夫妻
(単立ニューライフキリスト教会牧師夫妻)

会場: 杉並小隊・総合センター別館 (アネックス)

〈連載〉 聖潔の流れに立つ 第三十六回

ジョン・ウエスレーの聖潔 — 心うちに燃えて —

少佐 丸畑 幸夫

(承前) ホイットフィールドはブリストル近郊において野外伝道を始め、その宗教的感化は英国のキリスト教史上、際立ったものがあつた。

彼は弁舌さわやかな大説教者であり、力が内に潜む人物であつた。ウエスレーとホイットフィールドは共に、「信仰のみによる義認」を強調したために国教会からは親しまれず、国教会の伝統的因習を無視したとして、国教会内で説教する機会を奪われてしまった。この窮地を救つたのがホイットフィールドであつた。

ホイットフィールドは米国ジョージアで、熱心に伝道して孤児を集め、土地を入手し、建物を建てるための資金を集めようとして、一時、帰国していた。

ウエスレーがロンドンにおいて、ブリストル近郊よりホイットフィールドの招請を受けたのはその頃であつた。ホイットフィールドは国教会のやり方とは違う野外説教を試みていた。一七三九年二月、ホイットフィールドは最初の野外説教をおこなつて、二百人の炭鉱労働者に説教をした。二回目は二千人、三回目は四千人、四回目は一万人に説教をした。他の所でも彼のおこなつた野外説教は大成つたであつた。

しかしながら、資金集めの目的を果たした彼は再び米ジョージアに帰らねばならなかつたので、野外説教の成果を誰かに引き継いでほしいと願ひ、そのことをウエスレーに告げた。

ホイットフィールドはそのやり方の模範を示したが、高教會的な習慣が身につけていたウエスレーにとつては、今までの厳肅な秩序ある方法を破ることは罪だと感じ、ホイットフィールドの提案を引き受けるのに躊躇した。国教会が拒否するであろうことは、ウエスレーにとつては、耐え難いことであつたが、熟慮した結果、「キリストの山上の説教」は、まさしく見事な一つの先例であると結論した。

ウエスレーはここで自分の不毛な保守主義を脱して野外説教に踏み切つた。

気がついた時は、ブリストル郊外の野外で約三千人の人々に説教していた。この熱烈な彼の姿を評して、ある者は「人間になつた鬪鶏」と称した。

国教会からあまり歓迎されない方法を採用し始め、一定の教区での働きが思うようにならなくなつたこの頃から、ウエスレーは「世界はわが教区なり」との標語を掲げ、大衆伝道に力を注ぐようになった。

F. 二種類のメソジスト

ここまでは良かったのであるが、ウエスレーとホイットフィールドの親交を妨げることが生じた。

その原因は、「予定論」に関する意見の相違によるもので、ホイットフィールドは、在米中にカルヴァン主義のジョンナサン・エドワーズの感化を強く受けて「神の二重の予定」を信じるようになっていたことである。一方、ウエスレーは一七二五年以来、「神の二重の予定」に関しては反対の意見をもつていて、「万人救済」「自由の恩寵」を説くアルミニアンの立場を採つていた。

そこでウエスレーは母スザンナにこの困惑を打ち明けたところ、スザンナは、「これらの事は神の秘密に属する事であつて、あまり詮索しないほうがよい。無駄な思弁を避けなければならない」と奨めた。

ウエスレーはこの点で、スザンナを超えて「人の救いは、神の下さる人の自由意志と神の合意」にあると信じた。「神はある特定の数の人々が救いに選ばれる

と予知しても、そこに入るかどうかは、人の自由意志(神の下さる自由意志)にかかつている」と主張しているが、人間が自分の救いの創始者となることは断じて認めていないし、我々の救いが神の恩寵であることに変わりはない。すなわち、救いはキリストによつてのみ把握される。

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られたものである」との体験は、予定された特定の人の救いを限定するものではない、とウエスレーは万人救済主義の立ち場を採つた。

ホイットフィールドの追従者たちは、「カルヴァン主義的メソジスト」であり、ウエスレーの追従者たちは「アルミニウス主義的メソジスト」と呼ばれた。後にホイットフィールドは米国において、宗教大復興のために尽力し、大いなる成功を取めたが、彼自身は長老派教会へと吸収されていった。

ウエスレーは「今や二種類のメソジスト—すなわち特定者のための贖罪による救いを信じる者と、すべての者のための贖罪による救いを信じる者がいることが明らかになつた」と言っている。

ウエスレーの採つた立場は、救世軍の主張する立場でもある。すなわち、アルミニウス主義の中に顕されている「贖いの恵みの普遍性と人間の意志が回復され、神から与えられた自由」であつた。

二人の立場の違いは激しい対立となつて表れたが、それは個人への攻撃ではなく、「二重予定論」に関してであつた。

彼らは終生、温かい友情に包まれていた。ホイットフィールドが召天した後、ある女性が「ウエスレー先生、あなたは敬愛するホイットフィールド先生に天国でお会いなさることを願つていらつしやいますか」と尋ねたところ、しばらくして、ウエスレーはごくまじめな態度で「いいえ」と答えた。そして彼は熱をこめて、こうつけ加えた。「どうか私を誤解しないでください。ホイットフィールドは天に輝く星でした。」(続)

集会 報告

召天者合同記念会

2024年10月12日(土) 午後2時 多磨霊園

救世軍チャリティーコンサート

2024年11月23日(土・祝) 午後2時
山室軍平記念ホール

●召天者合同記念会

今年も対面での開催となり、晴天のもと、多くの方々が集われました。救世軍士官墓所前で、書記長官西村保大佐補の司会で進められました。軍国女性部書記西村和江大佐補が開会祈禱を献げ、司式の司令官スティーブン・モーリス大佐が開会の辞を述べました。2023年10月1日以降の召天者及び納骨者のお名前を伝道事業部長石川和男少佐が朗読し、救霊の戦いを戦った先人たちを偲び、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が代表献花をし、参列者全員が黙禱。司令官は「深い悲しみと復活の希望」(テサロニケ 4:13~18)と題してメッセージを語り、祈禱及び祝禱を吉田真中将が献げました。ご遺族を代表して、故池田和子少佐の長女、伊藤和穂さん(清瀬小隊書記)が挨拶をし、最後に参列者全員が献花をしました。(参加者171人)

これに先立ち、午前10時10分からは青山霊園立山墓地、午後1時から多磨霊園内の社会部墓地、午後1時



司会の書記長官



メッセージをする司令官



代表献花



ご遺族代表の挨拶

15分から救世軍人墓地にて、それぞれ短い記念集会と献花の時間がもたれました。

●救世軍チャリティーコンサート

ジャパン・スタッフ・バンド (JSB) による「救世軍チャリティーコンサート」は、従来の「社会鍋デモンストレーション」と「クリスマスの夕べ」を統合した外部向けのコンサートとしておこないました。

JSBメンバーに各小隊の戦友有志と一般ブラスバンド演奏家も加わり、総勢38人のバンド編成でした。マーチ「Star Lake」で開会し、救世軍歌や賛美歌を基にした曲、クリスマス曲など全11曲を演奏しました。司会は伝道事業部長石川和男少佐。演奏の合間に、国内外の救世軍の働き、能登半島地震をはじめとする災害被災地支援の活動報告などを、スライドを使って紹介しました。

司令官スティーブン・モーリス大佐はメッセージで、社会鍋の鍋の中からお弁当を取り出し、「皆さんの尊いご献金がこのような働きになって、人々のニーズにこたえていくことができます」とアピールしました。メッセージ後には「きよしこのよる」をバンドの演奏で会衆皆で歌い、クリスマスの訪れを待ち望む時となりました。最後



に「Christmas Joy」の演奏がなされ、閉会しました。来年の大会でのチャリティーコンサートの広告もありました。

正面玄関外には社会鍋を設置して道行く人々にご協力を呼びかけ、デジタルサイネージ(電光掲示板)では救済活動の動画を放映。また、コンサートの休憩時間と終了後に、ホール外で温かいコーヒーとクッキーのサービスをおこないました。音楽を通じて多くの方とクリスマスの喜びと希望を分かち合えたことを感謝いたします。(会衆149人)



〈ご案内〉

初野戦

1月5日(日)
午後2時30分

東京・上野公園カエルの噴水前

3月5日

レントに入る

集会報告

司令官及び軍国女性部会長による 関東東北連隊 キャンペーン(1)

2024年6月16日(日)、23日(日)、30日(日)、7月7日(日)、14日(日)

司令官スティーブン・モーリス大佐及び軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐(通訳は山谷真少佐)による関東東北連隊のキャンペーンは、6月から11月まで、日曜日ごとにおこなわれました。2回に分けて掲載します。

6月16日(日) 熊谷小隊で聖別会が小隊士官補佐田口哲也少佐の司会で進められ、軍国女性部会長の勧話の後、司令官は「神を畏れる父親がこの世に必要」(ルカ8:49~56)と題し、メッセージを語りました。(会衆9人) 愛餐会の後、「キッズイングリッシュたいむ」をもち、参加した子どもたちは、司令官夫妻と英会話を楽しみました。

6月23日(日) 仙台小隊の聖別会では、司令官夫妻と通訳として随行の石川一由紀少佐を歓迎し、永尾勉書記と山岸信寛会計によって2曲の賛美が献げられました。軍国女性部会長は勧話で、香水のようにクリスチャンの香りを放ち、周囲を感化を与えたい、と話しました。司令官は、ダニエル書3章から、「熱からの救い」と題して、異教の王の脅迫にも恐れず、燃え盛る炉に投げ込まれても、神の子が共にいて救い出された、3人の若者の信仰について語りました。(会衆15人) 集会後の愛餐会も祝されました。

6月30日(日) 桐生小隊。聖別会は大里忠弘曹長が司会をし、西川康之書記と野村しげ子副会計が証言をし、小隊士官補佐の成演宇特務曹長は、小隊の一人一人がキリストにあって楽しく過ごす姿に神様からの祝福を見る、と感謝しました。司令官は「聖霊による証印」(エフェソ1:11~14)と題してメッセージを語りました。(会衆11人) 聖別会後の学び会では、軍国女性部会長の導きで「人生を導く5つの目的」について考える時をもちました。続く愛餐会では、ご近所のプロの料理人、加藤氏の本格的なトンカツに舌鼓を打ちました。一日、祝福に満ちた時となりました。

7月7日(日) 高崎小隊では、長野分隊とリモートで繋ぎ、横山祐次曹長の司会で聖別会が進められました。軍国女性部会長が勧話をし、司令官は「成熟したクリスチャン」(エフェソ4:1~6、14~16)と題して、私たちの日々の歩みが霊的な成長と成熟にある、とメッセージをしました。(会衆26人) 誕生愛餐会では7月の誕生者をお祝いし、張田和子中将のカレーや亀井淳子家庭団会計のお漬物、洪敬子さんのお点前によるお茶会がおこなわれました。猛暑の中にも豊かな交わりの時となりました。

7月14日(日) 佐野小隊。聖別会では、開会祈祷、証言、献金、聖書朗読の役割を子どもたちが担い、与えられた役割をしっかりと果たしました。川島仁子オルガニストの伴奏で川島愛弓兵士が「心やさしければ」を賛美し、軍国女性部会長から勧話がありました。司令官は「選ばれるということ」(使徒1:15~26)と題してメッセージをしました。聖霊が降ったことによって若い人も子どもたちも弟子となったこと。年に関係なく弟子として生きることは、神に忠実に従い、人を愛するために、まず神の愛を知り、イエ



熊谷小隊で出席の皆さんと
キッズイングリッシュたいむ



仙台小隊の皆さんと



仙台と桐生には、石川一由紀少佐が通訳者として随行



仙台小隊での賛美



桐生小隊の皆さんと



←高崎小隊で聖別会后、出席者の皆さんと

↓お茶会の様子



スのようになりたいと祈り求めること、と語りました。(会衆17人、うち子ども5人) 愛餐会後は、司令官夫妻も日曜学校に参加し、軍国女性部会長がダニエル書から、ダニエルが神に従い神を知らない人たちの光となったように、私たちも神の光をもたらず人になりましょう、と話しました。(佐野小隊の写真は10ページに掲載)

集
会
報
告伝道事業部長及び副伝道事業部長による
西日本連隊 中国四国九州地区キャンペーン
2024年10月13日(日)～20日(日)

伝道事業部長石川和男少佐及び副伝道事業部長石川節子少佐は、12日夜に広島に到着。広島を皮切りにスタートしました。

13日(日) 広島・呉・福山・長野(リモートで参加) 合同聖別会を広島小隊にて指揮。広島・呉・福山合同バンドが結成され、多世代による賛美演奏が響きました。伝道事業部長はギターでの賛美の後、「キリストをまとう」(ローマ13:11～14)と題してメッセージを語りました。(大人29人、子ども3人、恵の座2人) 昼食会は出席者より自己紹介があり、和やかな時となりました。その後、人身取引対策室長でもある石川節子少佐が「人身取引対策の働きについて」講演しました。

14日(月) 広島小隊にて西日本連隊士官会を対面とオンラインでつないでおこないました。伝道事業部長、副伝道事業部長の挨拶の後、伝道事業部長は「私たちの現場」(ルカ6:37～42)と題してメッセージを語りました。(対面5人、オンライン9人)

15日(火) 呉地区施設訪問。チャプレンの藤井健次大佐補夫妻、吉田有施設長が案内。呉保育所の園児礼拝で副伝道事業部長は「お魚にのまれたヨナ」の話をしました。その後、愛光園・児童家庭支援センター明日葉、豊浜学寮、かるが会の施設を訪問。豊浜学寮では職員と子どもによる「お点前」での温かいおもてなしを受け、職員研修会に出席。かるが会では野間頼子歓迎軍曹(法人理事長)から、地域に根差した働きを伺いました。

16日(水) 友安渚中尉の案内で福山駅構内にある里親支援センター明日葉を訪問。伝道事業部長夫妻は一般の参加者と共に里親制度について学び、その後スタッフとの交流の時をもちました。(10人)

17日(木) 高知小隊へ。常駐士官不在のため、午前中は小隊周辺の草木の剪定作業をし、午後は安井軍旗軍曹宅を訪問。家庭集会をおこない、ギター奏楽での賛美、伝道事業部長は「わたしたちの光」(マタイ13:16)と題してメッセージを語りました。(6人)

18日(金) 早朝に岡山に移動。岡山小隊では戦友方の温かい歓迎の中、昼食会より参加。その後の「賛美と証言の集い」では、「1分証言」で恵みを分かち合いました。伝道事業部長は賛美をし、副伝道事業部長が「しかし、勇気を出しなさい」(ヨハネ16:33)と題してメッセージを語りました。(12人)

19日(土) 高松市サンポートの会議室にて高松分隊「救世軍聖書の集い」をおこないました。戦友の証言の後、伝道事業部長は「涙をぬぐわれる神」(ルカ7:11～17)と題してメッセージを語りました。(11人)

20日(日) 八幡小隊にて福岡・八幡小隊合同で「特別聖別会」がおこなわれました。伝道事業部長はギターでの賛美の後、「キリストをまとう」(ローマ13:11～14)と



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

〈写真〉

- ①広島小隊で合同バンド
- ②広島小隊
- ③呉保育所
- ④福山 明日葉で
- ⑤高知 安井宅
- ⑥岡山小隊
- ⑦高松分隊
- ⑧八幡小隊

題してメッセージを語りました。歓迎昼食会と懇親会が加茂あづさ大尉の司会により和やかに導かれ、最後に副伝道事業部長が「人身取引対策室の働き」よりショートメッセージを語りました。(15人、恵の座3人)(連隊報)

集会報告

人事・教育部長による 東京東海道連隊 東海道地区キャンペーン

2024年11月3日(日)、10日(日)、17日(日)

人事・教育部長添田美和少佐を迎えての東海道地区キャンペーンは、名古屋小隊から始まりました。

3日(日)名古屋小隊。聖別会では、子どものための祝福の祈りを人事・教育部長がしました。(写真10ページ) また、筒井隆太会計がマイ・ストーリーと題して、写真を見せながら、これまでの人生を振り返り、神様の導きを証しました。人事・教育部長はコリントー3:16~4:5より「神の計画をゆだねられた者」と題してメッセージをしました。愛餐会では出席者から自己紹介と近況を聞きました。

午後は女性部主催の講習会をおこない、外部講師を招いてクリスマスツリーを描きました。男性や子どもたちも参加しました。講習後、人事・教育部長がキャンドルを灯し、絵本を用いてクリスマスのお話をしました。(祈祷会16人、聖別会23人、愛餐会13人、女性部講習会12人)

10日(日)浜松小隊。社会福祉サンデーとして守りました。聖別会で人事・教育部長はルカ10章より「行って、あなたも同じようにしなさい」と題して説教しました。(会衆8人) 聖別会后、小林早苗少佐の指導によって「太巻き」を作り、おいしくいただきました。しばらくお交わりの時をもちました。

17日(日)東海道地区キャンペーン最終日は静清小隊の聖別会でした。

この日、小隊士官熊田光子少佐の35年永年勤続章の授与があり、東京から同期生の山谷昌子少佐と、友人として石川節子少佐も共に出席しました。山谷昌子少佐は証言をし、候補生時代のキャンペーン・夏期訓練以来、38年ぶりの清水来訪となり、長い間(白髪になるまで)、士官として主が負い、持ち運んでくださった感謝を語りました。人事・教育部長はヤコブ1:2~12より説教。試練は、罪の報いや信仰が足りないからではなく、成長するための主からの鍛錬であることを語られました。

以前の小隊士官(添田美和少佐、石川節子少佐)の来隊を覚え、久しぶりに集う方もあり、感謝でした。(会衆17人、恵の座2人)



①名古屋小隊
②名古屋小隊、女性部講習会でつくったカードを持って
③浜松小隊
④静清小隊、永年勤続章を受けた熊田少佐(中央)と同期生の山谷昌子少佐
⑤静清小隊



18日(月)は静清小隊で東海道地区士官会をおこない、キャンペーンのすべての行程を恵みのうちに終えました。

題してメッセージを語り、講演は「小さく弱くされたイエス様が」と題して、山中弓子氏(看護師、防災士、タッチケアセラピスト、親子支援・災害看護支援「てとめっと」代表)が講演しました。今までに阪神淡路大震災から東日本大震災、熊本大分地震、九州北部豪雨災害、西日本豪雨災害等にて避難所運営及び救護、地域支援、防災公園の設備活動等に関わり、現在は、JOCA(公益社団法人青年海外協力協会)で能登半島地震災害看護支援や避難生活環境改善支援に従事しておられる中で、具体的な働きから語られ、時間が足りないほどでした。(参加者161人、救世軍から4人)

杉並小隊

●女性部例会

12月8日(日)、クリスマス祝会をしました。山谷昌子少佐からクリスマスメッセージを聞き、クリスマスカードを手づくりし、ビンゴゲームなどで楽しみました。20代から90代まで19人が参加しました。



NEWS!!
NEWS!!士官志願者部・
霊的生活成長部

各地のニュース!!

●デザイン・フォー・ライフ
24

9月21日(土)～22日

(日)、静岡県裾野市「聖心会裾野 マリア修道院(黙想の家)」にておこなわれました。ゲストに司令官スティーブン・モーリス大佐、軍国女性部長ウエンディ・モーリス大佐、神田小隊士官 高島恵子少佐、通訳に山谷真少佐を迎え、20代から50代の戦友12人が全国から参加しました。(参加者計17人)

各集会は、テーマ「神が備えてくださったもの」(エフェソ2:7～10)を中心におこなわれました。1日目午後の開会礼拝は士官志願者部長 勝篋実香大尉が導き、軍国女性部長は、「神からの無償の贈り物である救いを受け取った私たちは、神のために良い業をおこなうことができる。また、そうするように神は天地創造の前から用意されている」とメッセージをしました。夜のバイブルスタディでは、高島少佐が、献身の歩みの中で経験した病を通して、「霊的な転換期—自分の人生を神に明け渡すこと」について得た恵みを証しました。そして軍国女性部長の導きで、参加者はお菓子をういた人生チャートを作成し、自分の人生を振り返りました。司令官は、「神は私をどのような者に造ってくださったか。神と過ごす沈黙の時、御言葉に聴く時をもってほしい」とメッセージをしました。

1日目の夜中、思いがけず敷地内が原因不明の停電とな

り、翌朝にも復旧しなかったため、急遽^{きゅうきょ}、2日目の午前中で黙想の家を去らなければならなくなりました。

そのため、2日目の午前中は、予定を繰り上げて、高島少佐より黙想とは何かを学び、その後、短く各自黙想の時間をもちました。続いて閉会集会を士官志願者部長が導き、参加者全員が今回参加して得た恵みや示されたことを証しました。最後に司令官は、「この突然の停電で、自分たちでは何もかもコントロールできない状況の中、ただ神の計画が先行し、神の愛がコントロールしている。神の声を聴くためには、パワーポイントも電気も紙も必要ない。必要なのはただ神と私だけ。生活の中で、御言葉の中で神の声を聴いて歩んでほしい」と語りました。

黙想の家をあとし、午後は予定していた美術館^{おもむ}に赴いて、穏やかな時間と共に、互いに豊かな交わりの時をもちました。今回、予定どおりのプログラムはおこなうことができませんでしたが、改めて神様のご計画に思いを寄せ、聖霊の導きをいただき、凝縮した神様の恵みを味わう時となりました。



士官学校

●士官学校オープンデー

10月19日(土)、「将来の奉仕のためのセミナー」をテーマにオープンデーを開催しました。各地の小隊からスタッフを含む18人が対面で参加し、5人がZoomを介してオンラインで参加しました。現在軍国で実施されている奉仕するための道(士官志願者)、また、検討されているさまざまな奉仕の道(単独士官職制度及び特務中尉制度)についての情報が紹介され、参加者の皆さんからは興味深く、具体的な質問がたくさんあり、たいへん有意義な時をもつことができ、感謝しています。2024年5月24日に出発した「525キャンペーン」を通して、そして今回のような行事により、新年度から神様が士官候補生だけでなく、生涯にわたって神様の呼びかけに答え、フルタイムで、または一定の期間でも、状況に応じて地域社会やコミュニティで、献身者として奉仕する信仰をもつ人々を与えてくださると信じています。引き続いて、信じて、祈りましょう。



女性部

●アジア教会女性会議日本委員会
(ACWCJ) 一日研修会

11月1日(金)、午後1時30分から、日本基督教団銀座教会でおこなわれました。コロナ禍以降、初めての全面開催で、「共に進もう、

世代を超えて」の主題のもと、インドの女性たちが作成した式文に沿ってDAY礼拝を献げ、銀座教会の伝道師 山森風花師がメッセージをしました。発題は「外国にルーツをもつ子どもや保護者に寄り添って」と題して、NPO 法人在日外国人教育生活相談センター信愛塾の竹川真理子センター長から、現場からの発信をいただきました。軍国女性部書記西村和江大佐補が全体司会をし、救世軍からは委員のほかメディアチームが動画及び音響のサポートをし、他に数人が救護係、受付などの役割を担いました。(参加者197人、救世軍から23人)

●第37回 ACWC 関西支部主催一日研修会

10月4日(金)、午後1時～3時、日本福音ルーテル大阪教会においておこなわれました。DAY礼拝では、日本福音ルーテル大阪教会の大柴讓治牧師が「隣り人の中にキリストの似姿(祝福の姿)を見るとということ」と



YP (青少年部)・ファミリーニュース

名古屋小隊

●子どもの祝福

2024年11月3日(日)、人事・教育部長キャンペーンの聖別会席上でおこない、添田美和少佐がお祈りしました。



佐野小隊

●司令官及び軍国女性部会長による キャンペーン (報告記事は6ページに掲載)

7月14日(日)、キャンペーン聖別会で、子どもたちが集会の役割(お祈り、証言、献金、聖書朗読)を果たしました。



子どもたちも司令官夫妻と一緒に



午後の日曜学校で



↑聖別会で、集会の役割を果たす子どもたち

杉並小隊

●森の音楽会

10月27日(日)午後1時30分から、「ブースの森」でおこないました。宇賀神努ワーシップ軍曹の司会とメッセージでした。雨がぱらつく時もありましたが、守られて、バンド演奏、タンバリン操練をし、集った皆さんで懐かしい歌を歌いました。ポスターを見た近隣の方、入院患者様のご家族などが来られ、ひとときの音楽会を楽しんでくださいました。中には、電話で日程を確認して来てくださる方もありました。(会衆60人)



●柏寿会

コロナ後、昨年のクリスマスから柏寿会が再開しました。かつて来ていた方々は、入院や施設への入所、召天などで人数が減っていましたが、今年度になり近隣の方々が来られるようになり、口コミでどんどん参加人数が増えてきています。女性部の戦友方がいつも奉仕しています。

●クリスマス訪問

12月1日(日)アドベント第一週の午後、恵みの家、グレイス、ブース病院にクリスマス訪問をしました。恵みの



家では、ユニット4カ所でカロリング、グレイスではバンドの演奏と、バンドの演奏に合わせみんなで賛美をし、ショートメッセージをお届けしました。その後、ブース病院の病院礼拝でバンド演奏、タンバリン操練、ハンドベル演奏をし、吉田慎也中尉がクリスマスメッセージをしました。入所者の方々、入院されている方々と共にクリスマスのひと時をもつことができました。



災害対策室レポート

●第4回災害対策室講習会

2024年10月28日(月)～29日(火)、広島県呉市狩留賀町にあり、救世軍愛光園とも日ごろ良い交流のある高齢者施設「かるが会」の研修室を会場として開催しました。今回は、対面・オンラインで災害対策室の全メンバーと西日本連隊士官、西日本連隊内の施設長が参加しました。開会集会は、災害対策室長石坂臣司少佐が「原点回帰」(イザヤ61:1)と題してメッセージをしました。続くセッションでは、社会福祉部長石川一由紀少佐が「日本における災害救援活動の変遷」、災害対策室長補佐堀浩明職員が「災害救援活動の学び～元幹部自衛官から見た救世軍日本軍国」のテーマで語りました。司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が夕食会から合流し、1日目を終わりました。

2日目は軍国女性部会長による祈祷会から始まり、災害対策室長補佐より「救世軍災

害救援活動マニュアルの取扱い」があり、備蓄食品を利用した昼食づくりをしました。司令官は、米国での自然災害、人災等で傷ついた人々に仕える救世軍の姿について講演しました。最後に開催地である西日本地区における災害の特徴や南海トラフ地震への備えについて考察する時をもちました。司令官から総評があり、祈りのうちに閉会しました。

全体として、各小隊・拠点の置かれている立地、平時の備えと、災害発生時の対応について学び、考察し、備える時となりました。(参加者30人、うちオンライン5人)



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

念チャペルにて開催しました。今年は礼拝と講演会の二部構成でおこないました。礼拝では、「いつくしみ深き」を賛美した後、医療従事者交友会会長ウェンディ・モーリス大佐の司式により、新会員の入会式をおこない、歓迎の時をもちました。今年は渡邊すみれ看護師と岩見由美社会福祉士の2人が新会員となり、医療従事者交友会会長は「健やかでいること」(詩編30:3)と題してメッセージを語りました。

講演会では、上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻教授であり、同大学グリーンケア研究所で、傾聴者養成に関わる演習科目等を担当されている葛西賢太先生を講師として招き、「自責の念とつきあう」というテーマのもと講演がなされました。コロナ禍の医療・介護従事者の体験にも触れつつ、自責の念を完全に避けることの難しさ等、具体的な事例を紹介しながら講演されました。(参加者41人)



交友会入会式で



講師の葛西先生と司令官夫妻

医療従事者 交友会

●例会の開催

11月15日(金)、ブース記念病院山室機恵子記念チャペルにて開催しました。今年度は、ブース記念病院山室機恵子記念チャペルにて開催しました。今年度は、ブース記念病院山室機恵子記念チャペルにて開催しました。今年度は、ブース記念病院山室機恵子記念チャペルにて開催しました。

医療部

●ブース記念病院、ブース記念老人保健施設グレイス、救世軍恵みの家 後期召天者合同記念会

10月26日(土)、杉並小隊・総合センターを会場に、2023年10月～2024年3月に召天された156人の方々を偲びながら開催しました。司令官スティーブン・モーリス大佐は「道を失っても決して一人ではありません」(ヨハネ14:1～14)と題してメッセージをし、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐のお祈りの後、参列者皆で献花をしました。(参加者ご遺族47人、スタッフ33人)

●ブース記念病院 108周年記念集会

11月18日(月)、山室機恵子記念チャペルを会場に、司令官、軍国女性部会長をゲストにおこなわれました。永年勤続者表彰として、5年10人、10年12人、15年9人、20年4人、25年3人、30年2人に感謝状が授与されました。先月末に医療事業の大きな転換が通知されたばかりでしたが、参加した職員に対して司令官による挨拶及びメッセージの中で、今回の決断に至る経緯として、第一に心に留めたことが、忠実に働いておられる職員のことであり、ケアされてきた患者様への医療サービスが継続されることが重要であるとの思いで、祈りつつ検討を重ねてきたことが伝えられました。司令官は「忠実な人々」(ガラテヤ6:9、10)と題してメッセージを取り次ぎ、軍国女性部会長が閉会の祈りを献げました。ブース記念病院の働きと関係者のため、医療部の各施設を覚えてお祈りをお願いいたします。

NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

熊谷小隊

●召天者合同記念聖別会

2024年9月29日

(日)、熊谷小隊では召天者合同記念聖別会を守りました。小隊士官補佐田口哲也少佐の司会で進められ、本営から出陣の副伝道事



業部長石川節子少佐が勧話をし、伝道事業部長石川和男少佐は「永遠の都」(ヘブライ11:3~16)と題してメッセージを語りました。

北海道連隊

●教誨師感謝状授与

10月10日(木)、札幌刑務所において、石坂臣司少佐に対して教誨師の働きへの感謝状授与式がおこなわれました。歴代の士官方がこの働きを継続してきた結果です。引き続き教誨師の働きのためにもご加祷ください。



連載

各地の小隊から
第11回 名古屋小隊

小隊士官 加藤直子少佐



名古屋は、徳川家のお城があり、城下町として栄えた歴史をもっています。小隊のある東区徳川町には徳川園(日本庭園)や徳川美術館があります。

名古屋小隊は、1906(明治39)年に開戦しました。その後、河合光治大尉(後の大佐)により市内に開戦した大曾根小隊が、戦後、最初に復興し、現在の名古屋小隊となります。戦後、初めての社会鍋は、松坂屋前でおこなわれ、今も同じ場所で続けられています。

1950年代に、岐阜小隊が再開戦、浄心小隊が開戦し、3小隊合同の活動がよくおこなわれ、後に、浄心小隊と岐阜小隊は、名古屋小隊に統合されました。

小隊の墓地は、大正時代に見市卯右工門特務曹長と戦友方により取得され、1977年に故高木七郎会計の設計により3小隊共同納骨堂を建設しました。毎年、春と秋に召天者合同記念会として聖別会と墓前礼拝をおこなっています。召天者名簿には、戦前の士官であった



2023年のクリスマスサンデー

松永昂少校、佐々久助中尉も名前を連ねています。

青少年活動は代々よくおこなわれていました。現在は、下士官が主になって、日曜学校やお楽しみ会等を継続し、第一日曜は、日曜学校合同ファミリー聖別会と愛さん会をおこなっています。



小隊には故菅光楽長など音楽の賜物のある人たちが在籍し、コロナ前はバンドや唱歌隊もおこなわれていました。最近、アマチュアの英国式金管バンドのメンバーが小隊の戦友と共に演奏奉仕に加わってくださっています。また、ミュージックキャンプをきっかけにワーシップの楽器練習を始めました。

コロナ禍以降、Zoomを導入し、聖別会にオンラインで参加できるようになり、東北や九州から参加する方もいます。平日には、聖書の学びや地域のボランティア活動をおこなっています。1993年に建て替えられた会館は、修繕工事を経て、昨年、献堂30周年を迎えることができました。2026年には開戦120周年を迎えます。これからも名古屋小隊に主の栄光が現され、信仰が受け継がれていくことを願っています。

〈連載・第30回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(12) 戦いへの呼びかけ

(承前) 救世軍は戦うために生まれました。その初期から悪との戦いを宣言していました。クリスチャン・ミッションから救世軍となるひと月前、ウィリアム・ブースは、大会 (War Congress) で語りました。「我々は戦いのため遣わされる。会衆に宣教するためではなく、安定を保つためでもない。我々は戦うために遣わされるのだ。……そして、この世を主イエスに従わせるためにほかならない。」

その2日前、大会の開会で歌われた歌は、その後世界中で闇の声として歌い継がれました。

いざあげよ ときのごえ
みよ^{めだ}仇は よせぬ
ひるがえせ 主のみはた
かざせ主のみことば^{ものふ}
やよ起て 主の^は武士
みはたに 馳^はせ参じ
雄々しく すすみゆけよ
ホサナと うたいつつ

(『救世軍歌集』315番)

驚くことでもありませんが、救世軍の動機は時には誤解されました。今もそうです。しかし、この戦いは人に対するものではありません。武力を使おうとは考えていません。全く違うものなのです。この軍隊は、人々を貧困、悲惨、不正、そして痛みから救うために組織されました。この軍隊の武器は霊的なものであり、それは神からのみ与えられるものです。1950年までに、キャサリン・ベアード大佐は大きな影響を与えた歌を書いています。

神の軍隊われらは戦う
罪あるところどこへでも行き
われらは戦う、敵なる罪と
神の子イエスにただ従い
いさましくただ進みゆく

いざ戦いにいでゆくわれら
高らかに歌いつつゆく
互いに違うわれらなれど
王なるキリストのもとで一つ
闇に勝利しわれらの主よ
高きにおられ力をくださる
十字架の愛と光よ

神の国は力によらず
柔和のうちに地上に来られた
その義と真理と恵み
栄光は高く響く
にぎやかなときも、さびしいときも

われらひたすら主のため戦わん
信仰をもって戦えば
御^{みくに}国にて勝利を得ん
御^{みこと}子キリストによる救いは
暗い夜を破り、朝が来るように
真理は罪を打ち破る
雪を溶かす陽の光のように
ついに愛は憎しみに勝つ

キャサリン・ベアード大佐は歌をつくり、こう言いました。「救世軍は暴力的な軍隊と全く違う正反対の存在だということをはっきりと明らかにしたかった。」続けて、彼女は「破壊ではなく救いのために、それがわたしたちの目的です。そして、わたしたちは人間と争うのではなく、神の愛と恵みという武器によって、世の悪を滅ぼすために戦いに行くのです。」この戦いは常に救世軍の伝道を中心なのです。

これにふさわしく、委員会で強調しているのは、あらゆる形の悪に立ち向かい、神の権威に逆らうすべての力に対抗する、主の聖なる戦いに参加するよう召し出されていることです。救世軍人は、世の救いのために尽くすよう召し出されました。それは世のあらゆる場面において、肉体的、精神的、社会的、経済的、そして政治的においてです。

近年では、霊的な対立に関心が高まり、かつては明確で単純だった言葉や信条も、新たな意味付けがされたり、教会でも激しい議論となったりしています。1990年代前半に開かれた世界宣教のためのローザンヌ委員会では、「闇の力に伴う霊的な戦いが現実には広がっている」とされ、9つの危険とその対策が挙げられました。

- 1、無宗教な世界観に逆戻りする、またはイエス・キリストの内に現された事実と旧約聖書における相似について正しく識別できないという危険。これについての対策は、聖書全体を正確に学ぶことであり、常に新約聖書の光に照らして旧約を理解すること。
- 2、悪に支配されるようになると、わたしたちの働きに対する責任ある行動を避けるようになる。これに対抗するためには、聖書の強い倫理的な教えを、「この世」や「肉体」と同様に強調することである。
- 3、闇の力に支配されるようになると、人々の中で悪魔が持ち上げられ、イエスが引き下げられる。これを防ぐには、霊的にも手法的にも、経験ではなくキリストを中心にするよう努めること。
- 4、失敗や無知やごまかしを無視しようとして、「真理」から離れて「力」を強調するような傾向に陥らないためには、明確かつ継続的に教えられてきた聖書の真理によるしかない。これは「力」によって解放されることや守られることは重要ではないという意味である。また、真理はわたしたちを自由にし、御^{みことば}言葉と聖霊の調和を保たせる。

(続く)

救世軍見解表明

社会道徳に対する救世軍の立場

第14回「障がいのある人々」(3)

実地的な対応

救世軍は、障がいをもって生きている人々のことを、知らずにいる、無視する、差別することに対して、積極的に声を上げる人々の働きを知っています。それが目に見えるものか、目に見えないものかにかかわらず、障がいをもって生きている人々の願いは、神にかたどって造られ、互いに支え合いながら生きる社会に住む、普通の人間として扱われることなのです。多くの場合、この願いに^{こた}えるためには、心と頭の態度をシフトすることが必要です。そのような態度と応答は、ある程度までは、促し、形づくり、教えることができます。そのゴールは、「私たち」と「その他の人々」の間を隔てている線を除去することです。障がいのある人々についての神のお考えを神学的に理解して、救世軍は次のように述べます。

1. 救世軍は、障がいのある人々の人権を擁護する世界的な働きを認めます。そして、特に障がいのある人々の貧困や差別を除去するために、人権擁護の働きに貢献したいと願います。
2. 救世軍は、障がいのある人々が神にかたどって造られ、共同体の生活のあらゆる面で、ユニークで貴重な貢献をすることを理解し、その理解を受け止め、発展させます。
3. 救世軍は、障がいのある人々に対して、健常者向けの奉仕を一時的におこなうのではなく、相互援助的な奉仕を進めます。私たちが礼拝や奉仕のあらゆる面ですべての人と共に働く時、私たちはさらに強められるのです。
4. 救世軍が一般的な方策、人的資源に関する方策、また、障がいのある人々に関する方策を作成する時に、障がいのある人々がたずさわり、相談を受け、積極的に関わるように努めます。
5. 救世軍は、すべての神の子どもたちがキリストの体の中でのびのびと生きるためには、障がいに関する次のような事柄や考慮が必要であると考えます。
 気づきを促す
 特別な訓練をする
 すべての人が利用できる建物のデザインを用いる
 コミュニケーションの方法として最善のものを用いる
6. 救世軍という共同体は、人生の旅路で互いに支え合いながら進む時に、相互依存と相互関係をさらに深く理解するようにと勧めます。私たちはすべての人の自治と自己決定を大切にするように努めます。

(2020年10月大将によって承認)

第15回「ポルノグラフィ」(1)

ポルノグラフィについての見解表明

救世軍は、聖書の教えに基づいて、すべての人が神にかたどって造られ、人間の身体と関係性は神聖なものであるとします。

ポルノグラフィはこれらに反している、と考えます。それゆえに、それを作り、配布し、使用することに反対します。

救世軍は、あらゆる形のポルノグラフィの^る流布や、それが簡単に入手できることに耐えられません。それで、その生産、配布、使用をやめるようにと、あらゆる努力をします。

救世軍は、特に、いかなるタイプの児童ポルノも嘆かわしいこととして、性的目的のために児童ポルノを作成し、配布し、使用することに強く反対します。

見解表明の背景と状況

ポルノグラフィの定義は、多種多様な文化的、国民的狀況から異なるかもしれませんが、ポルノグラフィは様々な検閲や法的規制を受けます。このために、ポルノグラフィは次のように定義されます。性的興奮を刺激するための、性器や性行為についての明白な説明や表示を含む印刷物や視覚資料。

オンライン通信が発展し、広く受け入れられてきたので、ポルノグラフィを簡単に配布し、消費することができるようになりました。今日世界の各地で、ポルノグラフィに触れることが珍しくないこととなっています。ソーシャルメディア（フェイスブックやXなど）の急激な成長は、ウェブカメラ、電話カメラ、セクステイニング（自分の性的に明白なメッセージやイメージを携帯電話で送ること）などを通して、子どもや大人を利己的に利用する新しい道を開きました。

ポルノグラフィは人間関係を損ないます。ポルノグラフィを見る結果として、男性は自分のパートナーの体に関して今まで以上に批判的になり、実際のセックスについての関心が薄れる、と報告されています。また女性は自分の体についてのイメージが悪くなり、パートナーの体について批判的になり、ポルノ映画で見た行為をおこなおうとプレッシャーがかかり、実際のセックスについての関心が減る、と報告されています。結婚という面では、性的興奮を高めるためにポルノグラフィを用いると、他の人の行為、結婚の枠の外の行為を思い浮かべることで、夫婦の性的関係が乱されることとなります。少なくとも男性がポルノグラフィに夢中になると、その結果として、十代のセックス、大人の結婚前のセックス、婚外交渉を受け入れやすくなる、と言われています。ポルノグラフィに夢中になると、婚外交渉や買春行為をおこなうことは相関関係にあります。

男性、女性、双方がポルノグラフィの害を受けますが、ことに女性が傷つけられ、物として扱われることが多く、その結果として、女性の人間性と、男性との平等の価値を下げることとなります。(続く)



中川邦男少佐 天に召さる

中山邦男少佐は、2024年11月26日未明、急性心不全のためご自宅より召天されました。82歳でした。

中川邦男少佐は、1972年、新潟小隊より士官学校『キリストに従う者』の学年に八重子夫人と共に入校されました。1974年3月、中尉に任ぜられ高松小隊長として遣わされました。その後、帯広小隊長、天満小隊長、(兼)関西四国連隊青少年部書記、静岡小隊長、新潟小隊長、神田小隊長を歴任。1998年、関東東北連隊長、(兼)高崎小隊長の任を受け、翌年、25年士官永年勤続章を授与され、2000年には桐生小隊長の任も兼任されました。2003年からは西日本連隊長、2006年京都小隊長、2007年に現役を引退。引退後も京都小隊長として継続奉仕されました。2009年からは、母小隊の新潟小隊長と若松小隊長を兼務され、2019年3月に完全引退されました。完全引退後も新潟小隊のために、そして新潟地域のためにご奉仕を続けられました。

11月17日には聖別会の説教をされ、24日にも連隊のオンライン集会に元気に出席されていました。生涯をかけて、キリストに従う者として、快活な精神をもって八重子少佐と二人三脚でよく奉仕され、また、周りの人々に良い感化を残されました。

11月27日、前夜式が関東東北連隊長細貝信義少佐の司式で、28日、告別式がご長男の中川喜悦牧師(日本伝道福音教団柏崎キリスト教会)の司式で執りおこなわれました。御遺族の上に神様の御慰めをお祈りいたします。

万国神学シンポジウム 2024

10月9日(水)から13日(日)まで、インドネシアのバリで「神はこの世を愛された—分断された世界でイエスに従う」をテーマに開催されました。世界各地から約100人の参加者が集まり、①和解、②キリストにおける全体性、③環境保護の3つの主要テーマについて議論しました。

初日は、歓迎の文化的なイベントから始まり、伝統的な舞踊がバリの救世軍の児童養護施設の少女たちによって披露されました。基調講演はカレン・シェークスピア大佐補(万国神学委員会議長)によっておこなわれ、参加者同士の交流が図られました。2日目から4日目はそれぞれ、「分断された関係から和解された共同体へ」、「分断された自己からキリストにおける全体性へ」、「分断された地球から責任ある管理へ」のテーマのもと、講演とそれに対するレスポンス、グループワーク、パネルディスカッション、個人的な省察の時間がもたれました。日本軍国からは山谷真少佐(コミュニケーション部長)が出席し、2日目に、ビショウ・サミカ大佐(ICO校長)による講演「分断された関係から和解された共同体へ:共に生きるための聖書の基盤」へのレスポンス(応答講演)を務めました。

4日目に、参加者は海岸に面したマングローブ樹林とウミガメの保護場を訪れ、マングローブの苗の植樹活動に参加しました。最終日には、参加者が各自の置かれた場でイエスの弟子としてどのように生きるかについて考える時間が設けられました。パティ・ニーマント中将(万国本営)の司会で閉会礼拝がおこなわれ、リンドン・バッキンガム大佐がメッセージをし、参加者に向けて励ましの言葉を送りました。

このシンポジウムを通じて、参加者は新たな洞察とインスピレーションを得る機会をもち、聖書の真理と現代の課題を結びつけることができました。3つのテーマの重要性を再認識し、それぞれのコミュニティでの実践に向けた具体的なステップを考えることができました。

**日曜学校教師
奨励サンデー
2月9日**

子どもたちの信仰のため働く
教師を覚えて祈りましょう

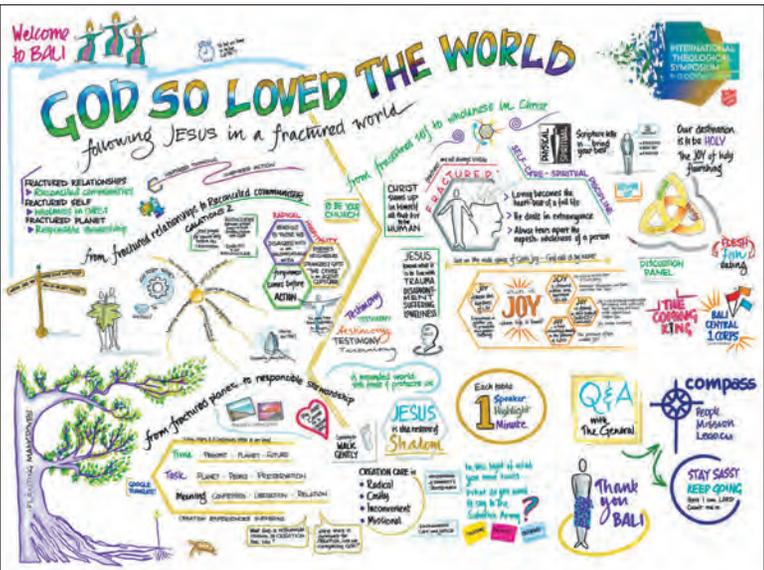
救世軍公報
召天
中川邦男少佐(新潟小隊出身)
は、二〇二四年十一月二十六日、召天。
司令官
ステイブ・モーリス

2月・スチュワードシップ月間
「管理者に要求されるのは忠実であることです。」
(コリントの信徒への手紙一 4章2節)
兵士献身サンデー 2月2日

能登被災地のための祈り

2024年1月1日に大きな地震を経験した能登地域は、その後、9月にも水害で大きな被害を受けました。2025年1月1日には、被災地を覚え、お祈りください。

- ①被災地の一日も早い復興を
- ②被災された方々の平安のために
- ③支援活動をしている方々への守りと導きがありますように
- ④被災地域にある教会の牧師、信徒の方々が守られますように



↑万国神学シンポジウムで制作されたグラフィック議事録

創立者 ウィリアム・ブライス 大将 リンドン・バッキングガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モリス (救世軍本営 東京都千代田区) <https://www.salvationarmy.or.jp>

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

清瀬病院

●召天者合同記念会

2024年10月5日(土)

に、清瀬小隊を会場に、2023年1月から12月に清瀬病院で召天された方々を偲びつつ、開催しました。ご遺族181人に案内状をお送りしましたが、欠席のご遺族からも、スタッフへの温かいコメント入りのお返事を数多くいただきました。列席者は27組55人とスタッフ29人で、総勢84人でした。

司会は吉田真中將、奏樂は吉田かほる中將、司会は坂本千歳チャプレン(当時)でした。「いつくしみ深き」「おどろくばかりの」の賛美と、土居弘幸院長の挨拶、各看護師長による召天者名簿朗読がありました。そして、司

式者から「イエスは涙を流された」(ヨハネ11:25~37)と題してメッセージがなされました。

記念会の後は、コロナ後初の「家族会」が催されました。一日を通して、ご家族と共に召天者に思いを馳せ、祈る、恵みの時となりました。



グレイス

●開設29周年記念集会

10月3日(木)、司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐を招いて、グレイス開設29周年記念集会がもたれました。

集会の中で永年勤続表彰もあり、20年、15年、10年、5年と全部で11人の職員に感謝状が授与されました。司令官はコリントの信徒への手紙二12章6~10節から「神の恵みは十分である」と題し、職員に向けて日頃の働きへの感謝を表し、奨励をしました。(出席者37人)



月島小隊

●召天者合同記念聖別会

9月29日(日)におこないました。小隊バンドが伴奏し、戦友有志が合唱しました。小隊士官平本祐子大尉が司会し、召天者名簿を朗読。鈴木雅子少佐がヘブライ12:1、2より「証人に囲まれて」と題し説教しました。昼食会では、故人の思い出などを分かち合う時をもちました。(会衆26人)



●ファミリーバザー

10月5日(土)10~14時、ファミリーバザーとして、小隊近隣の託児所さんと共催で、子ども向け商品、子育てグッズを中心としたバザーをおこないました。親子リトミックも同時開催しました。これは、以前の出張バザーの際に託児所の方がお声がけくださったことがきっかけで実施に至りました。雨模様の日でしたが、開店と同時に多くの方が来場し、盛況でした。託児所のスタッフの方々と戦友が協力して開催でき、感謝でした。

準備をする中で、ここに教会があると初めて知った、という声を度々聞き、より地域に開かれ仕える小隊となるよう祈りました。(バザー来場者約130人、スタッフ20人 リトミック子ども10人、大人12人)



(取扱支部)

発行日及び定価
 ▼発行日 毎月一日発行
 福喜版・奇数月十五日発行
 ▼定価
 福喜版・一部 四〇〇円
 広報版・一部 一〇〇円
 クリスマス特集号(十二月一日号) 一〇〇円
 振替・〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼 救世軍
 印刷人 代表者スティーブン・モリス
 編集人 山谷 真

〒101-0051 東京都千代田区
 神田神保町二丁目十七番
 電話 東京(03)三三七〇八八一
 発行所 救世軍本営
 印刷所 株式会社ヒーアンドエス